

3 カリキュラム開発等専門家報告書

令和4年3月14日
カリキュラム開発等専門家 黒川信義

令和3年度未咲輝学実績報告

実施内容

1 オリエンテーション

[令和3年6月10日 11R:10時55分～11時45分、12R:11時55分～12時45分]

○自己紹介、授業概要の説明、アンケートを実施

《授業概要の説明》

① 基本的にフィールドワークや実習に重点を置き、佐田岬半島の地形・地質を土台として歴史・文化などからそこに暮らす人々の暮らしを感じてもらいたい。

② 暮らしの原点に返って今の生活を見直してみると、新しい発見があるかもしれない。

たとえば、スマホという身近なIT機器を手軽に使用できる今日、電気やガスを使わない時代の生活から「暮らしの原点」を感じてもらいたい。

(添付資料:アンケート結果(令和3年6月10日実施)、アンケート結果概要(6月実施))

2 講義「光と暮らし今昔」

[6月24日 11R:14時45分～15時35分、12R:15時45分～16時35分]

電気やガスがないのが当たり前の時代を知り、過去の人々の暮らしがどのように変化を遂げてきたかなどパワーポイントにより説明した。第2時世界大戦中、実際に使用していた「灯火管制ランプ」を点灯、また、手回し蓄音機をならしてSPレコードとLPレコードを聴き比べその時代の変化を体感してもらった。

生徒らは、手回し蓄音機を見るのも音を聞くのも初めての経験であり、「音がでる仕組み」に興味をもつ生徒も少なくなかった。

休憩時間内に11Rから12Rへ移動することとなったが、機材準備に時間がかかった。

(添付資料:光と暮らし今昔)

3 講義「海の道・陸の道と赤坂坊山石塔群」

[9月30日 14時45分～16時35分]

佐田岬半島(特に三崎地区)から望む豊予海峡『速吸之門』は、古代の瀬戸内海と宇和海を結ぶルートでもあり、三崎地区が、中世以降の海上交通の要所として繁栄していたことを理解してもらうことを目的とし、パワーポイントと石塔に使われた石材のサンプルを用いて説明した。

石塔群は、その石材から瀬戸内海沿岸地域や九州などから運び込まれたものであることがわかることを説明した。さらに7種類の石材からなる100基ほどの石塔が、1ヶ所に集中しているのは日本でも極めて珍しく郷土の貴重な文化財であることを付け加えた。

また、石材サンプルを手にとり磁石で「つくつかないか」などを試み、次回予定の見学実習に備えた。

(添付:海の道・陸の道と赤坂坊山石塔群)

4 文化財見学「赤坂坊山石塔群およびあこう樹」
[11月4日 14時45分～16時35分]



瀬戸内海沿岸や九州などから運ばれてきた石塔であることを理解するため、前回授業で学んだ石塔表面の目視観察および磁石を近づけ「よくつく」「僅かにつく」「つかない」などから石材判定を行って石材産地を推定した。

見学実習は、3人一組のグループに別れ、それぞれ相談しながら石材の判別を行ったが、限られた時間内で行うため、全員に対し十分に指導することは難しかった。特に、磁石の僅かなつき具合など微妙な差を見極めるのは難しかったようである。終了後に答え合わせを行った結果は、正解率は約60%程度であったが、生徒らは、石材の判別を目視だけでなく磁石でも行えることを知り、三崎地区が中世海上交通の要所であったことを感じてもらえたと思われる。

あこう樹は、大正10年に四国で初めて国の天然記念物に指定され、巨樹としてまとまって生育していることや北限地であることなど学術的に評価されていることなどを説明した。

(添付資料：赤坂坊山石塔群の石材調査資料、赤坂坊山石塔群における岩石のみかた)

5 実習「絵の具拓本」

[令和4年1月27日 14時45分～16時35分]



石や金属にかかれた銘文を解読するなど文化財調査に欠かせない拓本技術の基本を実習した。史料に基づき中庭で説明をしたのち、機材（タンポ）作成にとりかかった。実習行程の全てを2時間で行うため、今年度は2人一組で構内のマンホールを使った拓本実習とした。タンポ制作や細かい柄をうまく写し取る技術など一人ひとりに十分指導する事が出来なかったが、生徒らは、初めての経験でもあり「柄を写し取る」ことに満足していたようだった。（添付資料：拓本実習のてびき）

6 見学「町見郷土館」、講義「佐田岬半島の岩石と地質」

[令和4年2月17日 13時45分～16時35分]

三机須賀の森を見学予定だったが、天候の関係で町見郷土館の見学となった。

11R、12Rに別れ、町見郷土館の展示内容の説明を受け、民具など直接手に触れるなど郷土における生活を体験させることが出来た。

2階の教室では、佐田岬半島の岩石と地質についてパワーポイントによる講義を行い、佐田岬半島で収集した岩石サンプルを手にとって確認するなど佐田岬半島の地質を感じてもらった。

（添付資料：佐田岬半島の岩石と地質）



7 須賀の森見学

[3月9日 14時20分～16時]



11R、12R合同で実施した。

愛媛県指定天然記念物「須賀の森」は、机湾入口から伸びた砂嘴の上あり、まず、「須賀の森」に入る前に砂嘴のでき方や、入口に置かれて石碑（注連柱：しめばしら）によってここから奥が聖域であることを説明した。

須賀の森に入り、真珠湾攻撃で命を落とした「九軍神」や近年江戸時代から謎となっていた鬼面が発見されたことなどを説明した。さらに三机湾などを見渡し見学を終了した。

なお、片道40分程度の移動時間を考慮しなければならないため、見学時間は20分程度の短い時間とせざるを得なかった。

（添付資料：須賀の森はどうできたか、三机湊）

【課題】

未咲輝学は、ブーメラン人材育成の一助となることを念頭にカリキュラムを策定してきた。佐田岬半島は、他の地域にない独特な場所であり、そこに生態系が育み人々の暮らしや文化があることから、フィールドワークや実習に軸足を置いた。

実施に当たり幾つかの課題が浮き彫りになったため以下に示す。

1 移動時間について

瀬戸地区、伊方地区などへの移動する場合、昇降時間も含めると片道 40 分程度必要である。このため、2 時間の行程では、実質の見学時間を 30 分以内としなければならない。

2 見学場所について

佐田岬半島の道路は、幹線から外れると大型車の運行が困難で駐車場の確保も難しくなるため見学場所が限定される。

3 時間配分について

フィールドワークや実習を行うに当たり、説明等を事前に行っておく必要がある。事前説明は、フィールドワークや実習の直前に実施するのが望ましい。

また、自発的な質問、意見、感想などを述べてもらう時間を充分にとることが必要である。

4 資料準備について

教室での授業は、パワーポイントを使用したがる、映像が消えるので記憶に残りづらい。このため、要約した資料を作成しパワーポイントと併用する必要がある。

5 雨天時等の対応

悪天候時でも見学ができるような場所を確保して臨機応変な対応ができるようにしておく必要がある。ビジターズハウス、町見郷土館などは、その代替見学場所として確保しておきたい。

6 実習機材の準備について

拓本実習では布片・化繊綿・絵の具・画仙紙などを、赤坂坊山石塔群見学の事前説明では石材サンプルを、佐田岬半島の岩石と地質では岩石標本を用意した。今後、これら授業を継続する可能性および準備品の要否についても検討することが望ましい。

7 佐田岬みつけ隊への入隊を推奨

上述のようにクラス全員によるフィールドワークには限界があるため、希望者など少人数に絞り活動することが望ましい。

【その他】

地歴部活動

未咲輝学遂行において直面した課題解決のため、サークル活動を立ち上げ、佐田岬みつけ隊（町見郷土館サポーター）のメンバーのサポートを受けながら活動を継続していくこととした。

今年度は、2 年生 5 人が地歴部を立ち上げ、佐田岬みつけ隊に入隊して地域の人たちとの交流を深めながら、伊方町の地質・文化・歴史などを体感した。

（添付資料：地歴部の活動）

以上

アンケート結果（令和3年6月10日実施）

アンケートは、生徒がどのような生活環境で、どのような希望を描いているかなどを知ることを目的に、3項目の簡単な質問を無記名で回答を求めた。

《質問内容》

- a あなたの郷土を自慢してください。
- b 50～100年後の日本、あなたの郷土は、どのように変わっていると思いますか（希望でよい）。
- c 興味あるものは？ [海, 山などの自然、文化財, 考古学、電気, 機械, I T関係、土木建築、農業・漁業、観光サービス業、芸術、その他]

《とりまとめ：別紙》

各質問に対する回答を図1、2、3に集計し、それぞれの項目から読みとれる傾向を①、②、③、④にまとめた。概要は以下のとおりである。

① 自然環境の重要性を感じている

「自然環境」については、図1、2、3とも最上位にあり、多くの生徒が重視している項目である。

[今後の取組] →自然環境の保護はもちろん、自然の恵みをどのように感じ、佐田岬半島に暮らす人々が、「暮らしの中」にどう活かしてきたかなど問題意識を持てるようになると良い。

② 地域社会・産業の注目度が高く期待感がある

図1では特産品、農業、漁業に関することは下位にあるが、図2では上位にきており注目度が高いことを示している。

[今後の取組] →『地域のブランド化』、『他地域との差別化』などをキーワードに、伊方町固有の環境を活かした産業を盛り上げたい。

③ 将来、情報化が進む一方で少子化も進む

人口問題（少子高齢化）は、避けられない問題だと感じている。各分野での技術革新がなされ情報化社会が進むと考えているようだが、電気、機械、I T関係に対する興味は薄いようだ。

[今後の取組] →理科離れ、科学離れに向かわないよう、科学の歴史を学ぶなど原点に立った物作りに注目してもらいたい。

④ 文化芸術の注目度が低くなると感じている

「文化芸術・文化財」などは、地域資源であると感じてはいるものの将来的な活用方法など現実的なものとしての実感はいようである。

[今後の取組] →関係する地域イベント・サークル活動への参加、保護活動の推進、または先進地の良好事例の紹介も必要と考えられる。また、身近な文化財等を見てもらい、それらの価値や必要性をわかりやすく説いていきたい。

以上

アンケート結果概要 (6月実施)

- ① ①自然環境の重要性を感じている
- ② ②地域社会・産業の注目度が高く期待感がある
- ③ ③将来、情報化が進む一方で少子化も進む
- ④ ④文化芸術の注目度が低く感じている

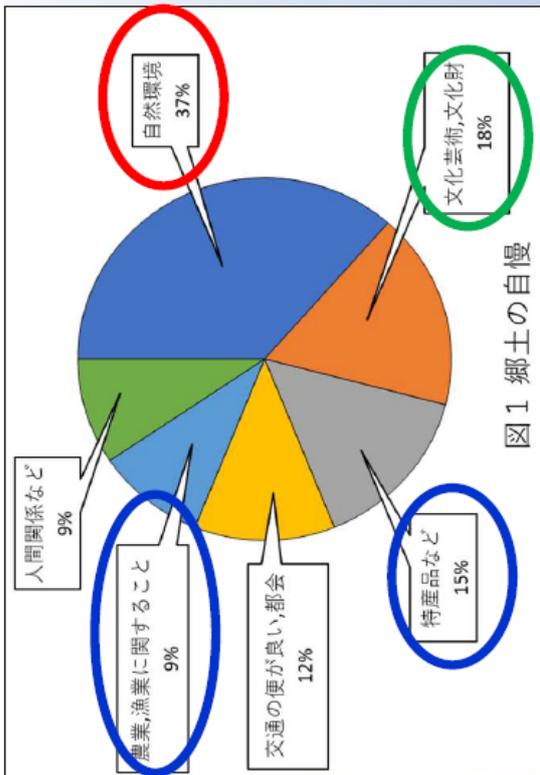


図1 郷土の自慢

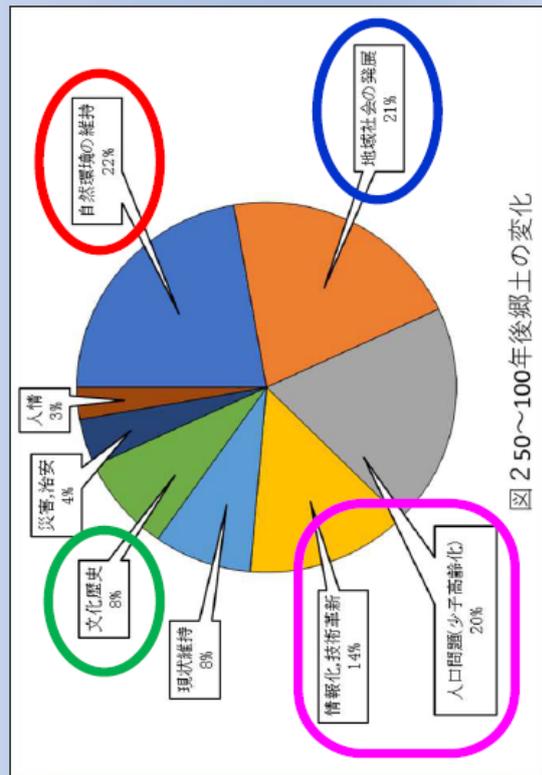


図2 50~100年後郷土の変化

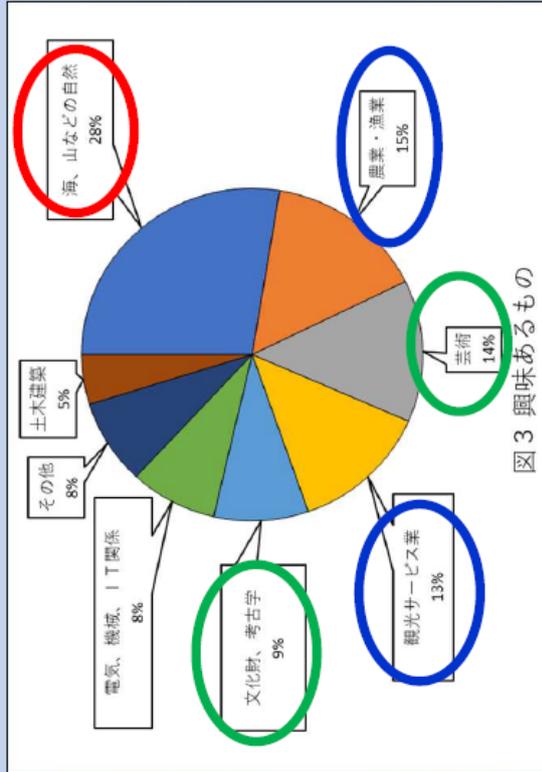
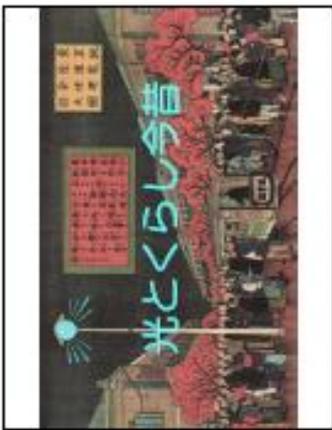


図3 興味あるもの

(添付資料 アンケート集計表)

● 50～100年後の日本、あなたの郷土はどのように変わっていると思うか（希望でも良い）

自然環境の維持	木がなくなる
	遊べる場所が増えてほしい
	綺麗な自然は変わらず残っていてほしい
	畑が減っている。人も減っている
	郷土の自然は減っているかも知れない
	地球温暖化がすすむ
	木造の家が増える
	木が増える
	ミカンや魚が美味しい
	人口減少となっても自然が今と変わらず残って欲しい
	郷土と自然が残って欲しい
	ソーラパネルを田圃などに設置して欲しくない
	自然を残したい
	気温の上昇が顕著になる
自然を残したい	
自然を大切にしたい	
地域社会の発展	お店が増えている
	人が増えている
	社会が発展している
	もっと都会になる
	子供が沢山いる
	都会化が進んでいる
	都市化が進んでいる
	便利になってほしいが、変わりすぎないでほしい
	すぐ近くにコンビニがほしい
	遊べる場所が増えてほしい
	「未来」らしくなってほしい
	地域活性化が進んでいる
	経済発展している
頻繁に車が往来するような活気のある街になっている	
人口が増えコンビニなど手軽に買い物ができる場所が増えて欲しい	
人口問題	高齢化が進んでほとんど老人しかいない街になる
	過疎化は止まってほしい
	子供が増えてほしい
	畑が減っている。人も減っている
	人口減少
	人口減少となっても自然が今と変わらず残って欲しい
・ 高齢者の過ごしやすい街を期待	



1



4



7



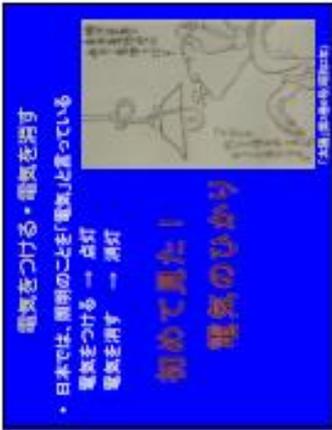
2



5



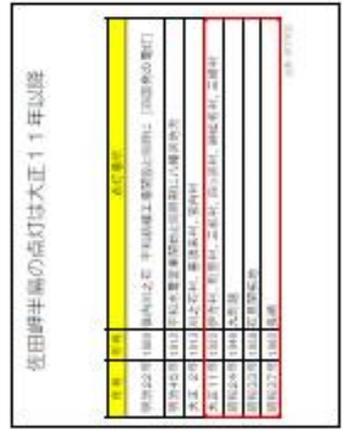
8



3



6



9

海の道・陸の道と赤坂坊山石塔群

I. 古代・中世の佐田岬半島「海の道・陸の道」

1. 海の道

①古代の瀬戸内海

古来難波と筑紫(大宰府)を結び、さらに大陸へ通ずる海上交通の大動脈であった。

沿岸地域は、大和政権の兵士・軍船などの供給地となり、また、大陸文化も定着する地域となった。

②古代の豊予海峡

日本書紀に「速吸之門」(速吸の瀬戸)と言われる難所が見える。

瀬戸内海と宇和海を仕切る重要な海峡であり、佐賀関か佐田岬半島のいずれかに関所が置かれ、太宰府発行の通行証により管理されていた。

[続日本紀による

奈良時代のはじめ(716年)、伊予・豊後二国の界には戍(じゅ：屯所)が置かれ、往来は許可されていなかったが、五位以上の使者に限って、それを認めてほしいという大宰府からの申請があった。その後、朝廷からそれを許可されている。

2. 古代海の道

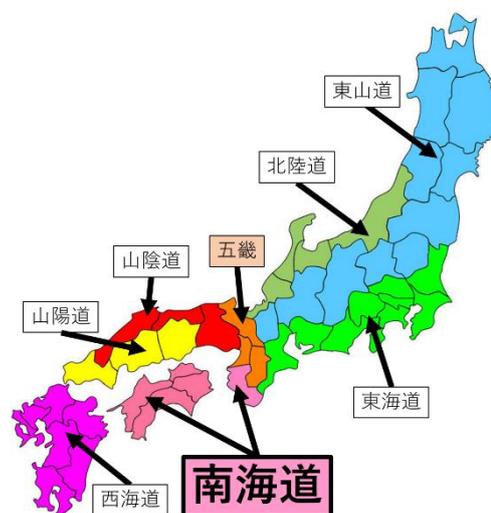
①律令国家は、行政区画として五畿七道に区分した。

②七道は、同じ名称の官道(駅路)として、都と国府を結ぶ幹線道路でもあった。

3. 南海道

律令制下の七道のうち南海道は、紀伊国、讃岐国、淡路国、阿波国、讃岐国、伊予国、土佐国である。

官道(駅路)には約16km(30里)ごとに駅家(うまや)が置かれ、馬が用意されており(南海道の場合は5匹)、官人のみがこれを使用していた。



4. 海上輸送への転換

古代海の道は、造船・航海技術の未熟さなどから航行の安全は担保されず、海難時のリスクが大きかった。大量の物資を運搬する場合、陸路で都に納めるよう指示していた。

伊予国などから都に物資を納める場合は、最低限の海上輸送が必要だったことは言うまでもない。

一方、船を利用すれば、輸送期間は短縮され、さらに大量輸送が可能であり、海上輸送は8世紀から活用され、9世紀になると人の往来も多く海路が利用されるようになった。

宇和郡、喜多郡からの貢物も海上輸送を利用していたと考えられている。

5. 西海道の港から八幡浜へ

廃止された駅路数の記録から想定すると、八幡浜には、駅路に繋がる支線があった可能性がある(愛媛県史)。

頻発する海賊の被害を避けるため、西海道(九州)の港からの八幡浜の当りに入港し、ここから陸路たどったとされる(類聚三代格:796年)。

佐田岬半島の港で風待ち、潮待ちしながら航行していたことは充分考えられる。

6. 古代・中世の船



準構造船は、丸木舟を船底にして、舷側板や縦板などの船材を加えた船で、古墳時代から室町時代まで使われていた。

7. 中世の道

中世になるとさらに海上交通は発達していった。

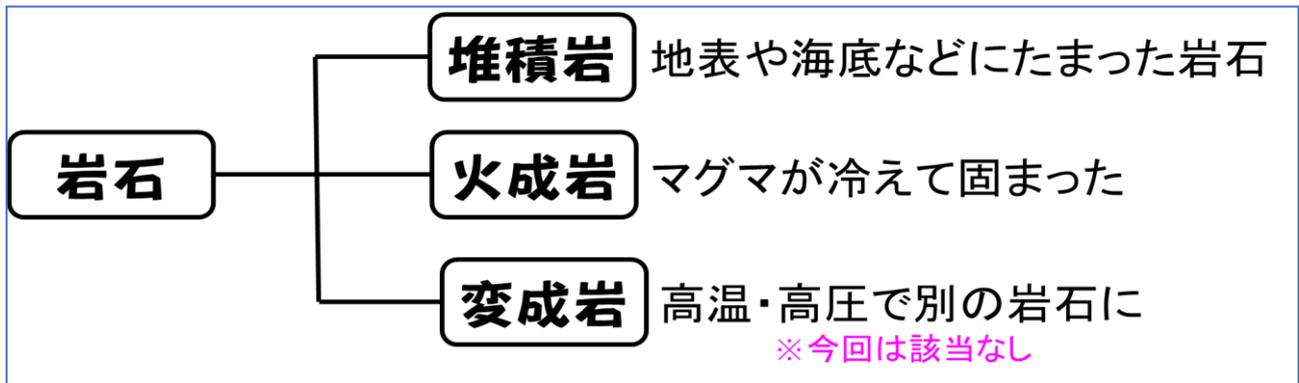
佐田岬半島周辺の海路・陸路については資料に乏しいため、古い石塔の設置場所に注目して中世の道を推理してみたい。

特に、初期に出現した凝灰岩製の石塔(伊予の白石とも呼ばれている:鎌倉時代～南北朝時代)の分布から、ルートを探ってみよう。

II. 石材を確認する

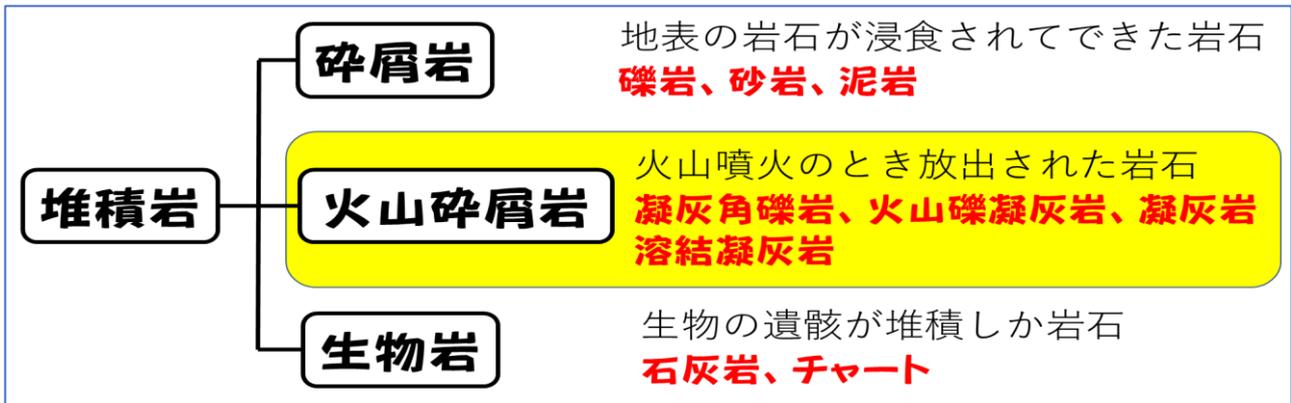
1. 岩石の種類

岩石は、堆積岩、火成岩、変成岩の3種類に分類される

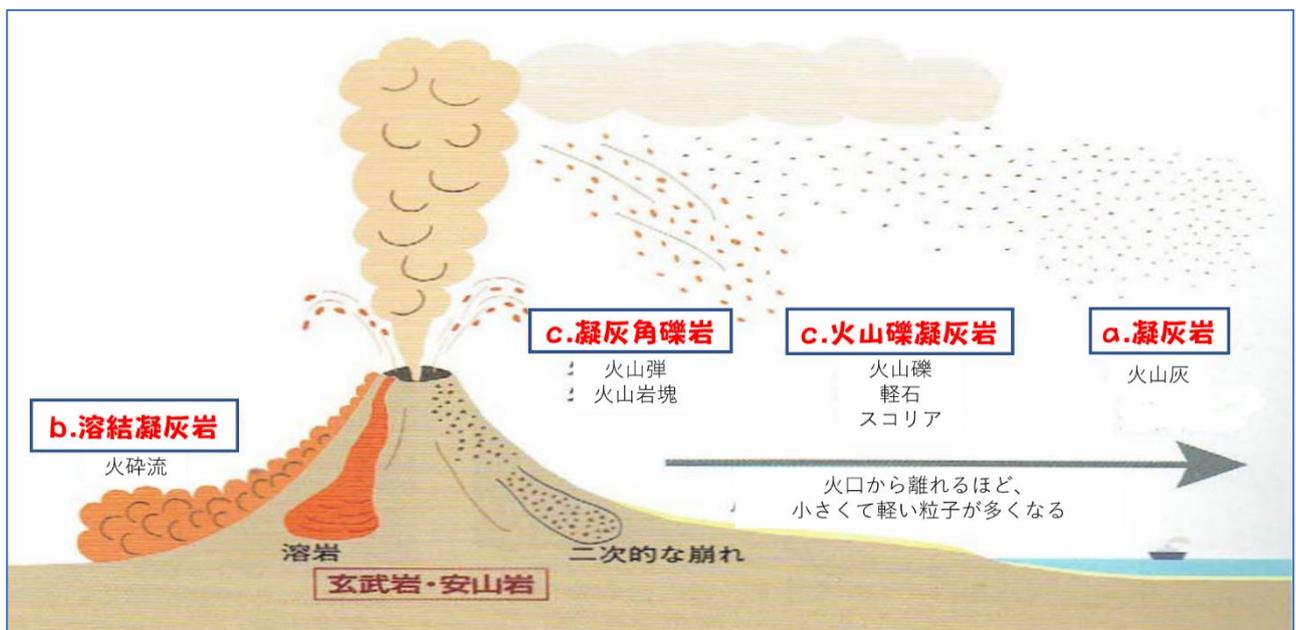


2. 堆積岩

地表や海底などにたまって固まった岩石



A. 火山碎屑岩（堆積岩）



a. 凝灰岩

- 火山灰(2mm 以下)が堆積し固まった岩石。
- 構成する粒子は、鉱物と火山ガラス。
- 火山岩が含まれていれば火山岩と区別できる。

b. 溶結凝灰岩

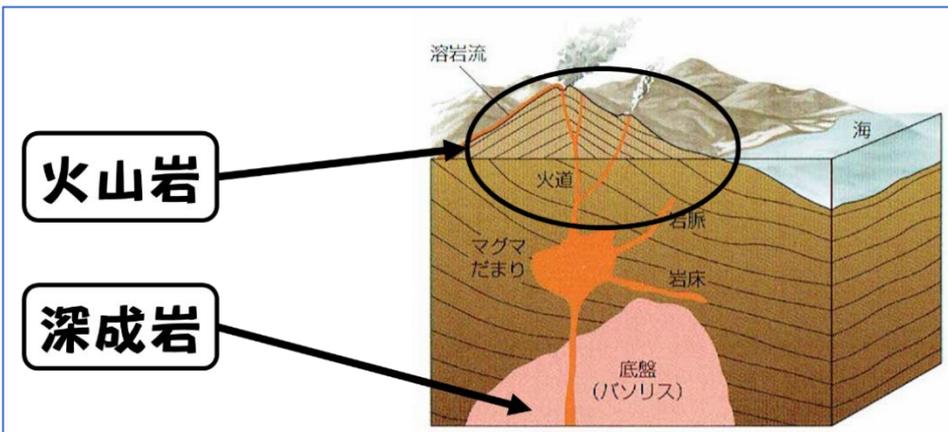
- カルデラ火山など超巨大噴火による火砕流が堆積した岩石。
- 高温で大量の火砕流によって、軽石がレンズ状につぶされているものが多い。

c. 凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩

- 凝灰角礫岩は、4mm から 32mm の角張った火山礫を、火山礫凝灰岩は、4mm 以下の火山礫を含む岩石。
- 火山礫は、軽石やスコリア(黒色の軽石)、火山岩片など。
- 礫を埋める基質は火山灰など。

B. 火成岩

マグマが冷えて固まった岩石

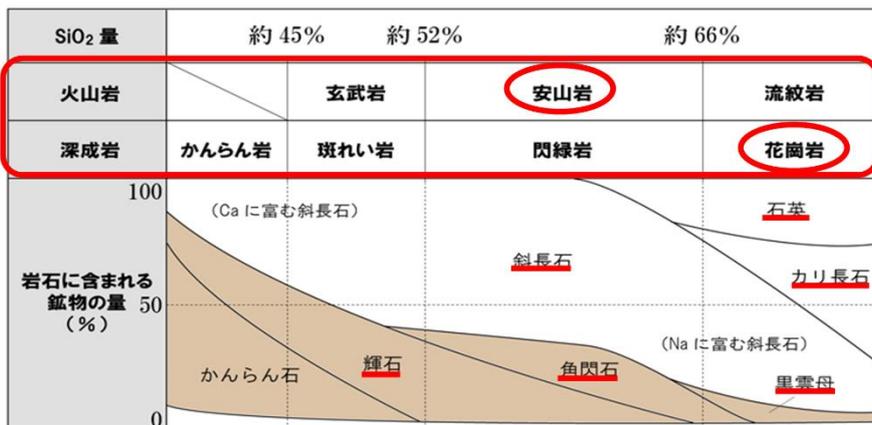


火山岩

火山の噴火によりマグマが地表付近に現れることで、急冷してできた岩石。火山岩は斑晶と細流の石基からなる斑状組織を示す。

深成岩

マグマが地下深くでゆっくり冷えて固まってできた岩石。粒の大きさが揃っており、大きく成長した結晶がひしめきあった等粒状組織を示す。



Ⅲ. 赤坂坊山石塔群

赤坂坊山石塔群には、佐田岬半島に運ばれた中世石塔の種類・石材の全てを網羅している。

1. 石塔の種類

①五輪塔(ごりんとう)

平安時代後期に我が国独自に密教系の塔として作られたもっともポピュラーな石塔。



五輪塔



宝篋印塔



層塔



宝塔

②宝篋印塔(ほうきょういんとう)

8世紀に中国で作られたものが原型で、我が国では鎌倉時代以降に五輪塔とともに流行した。

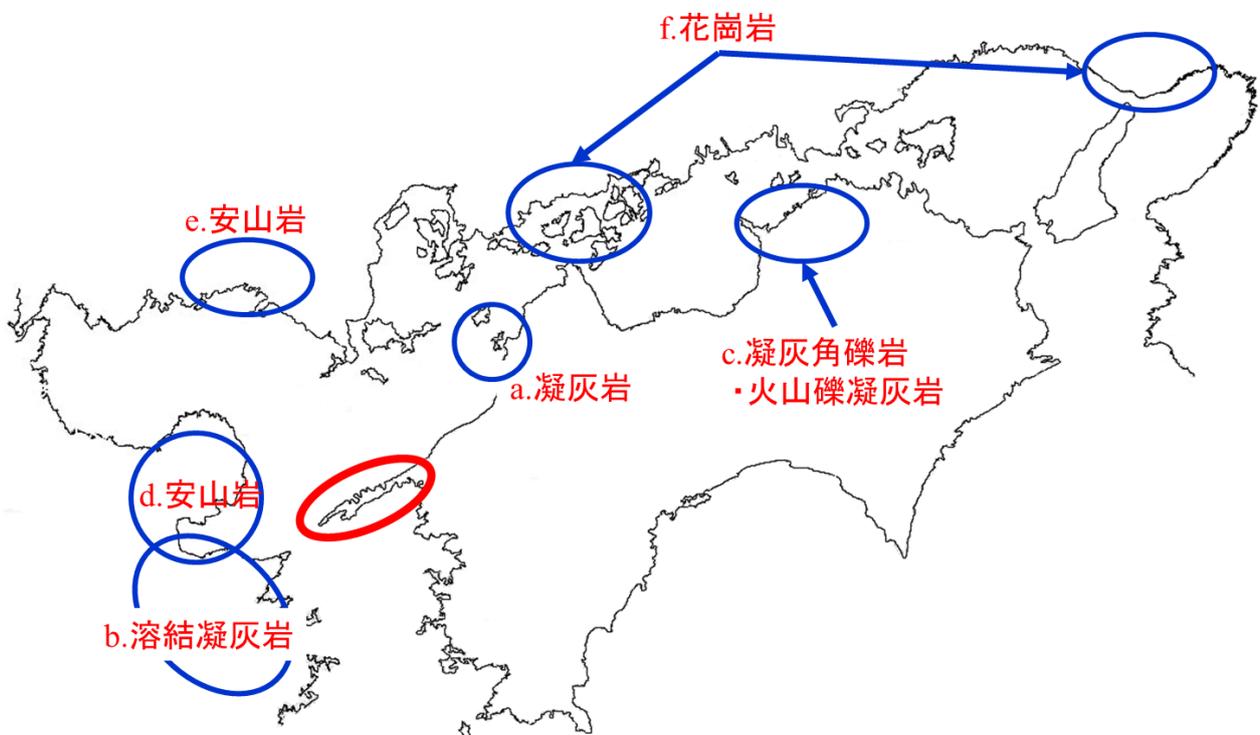
③層塔(そうとう)

仏教の伝来とともに作られた木造層塔を石塔にしたもので、奈良前期から作られた。

④宝塔(ほうとう)

宝塔は、法華経の教義に基づく密教系の塔として平安時代後期から作られた。

2. 石材の産地



3. 石材の種類

①火山砕屑岩

a.凝灰岩(産地:愛媛県中予)



乳白色の基質に白色の斜長石(花崗岩類の粒)が混ざっているのが特徴である。産地は松山太山寺周辺で、約1500万年前の石鎚山(カルデラ)の噴火による火山灰の堆積物と考えられている。

b.溶結凝灰岩(産地:大分県中南部)



暗灰色で気泡が多く軽石や安山岩の礫を多く含み、軽石がレンズ状に引き延ばされている。

9万年前の阿蘇山の火山活動によって形成された火砕流堆積物で、産地は大分県南部である。臼杵石仏や高千穂峡などが有名。

c.凝灰角礫岩・火山礫凝灰岩(産地:香川県西部)



これらは今から約 1500 万年前に西部讃岐の大規模な火山活動によって出来た堆積岩である。四国霊場八十八カ所第七十一番弥谷寺は、これらの岸壁を利用して建てられている。

②安山岩(火山岩)

d.安山岩(産地:大分県北部)



灰色～やや乳白色。斑晶として細長い角閃石を含む。産地は、由布～鶴見岳火山群(35,000～6,000 年前)や国東半島(宇佐火山類など)の古い岩石。

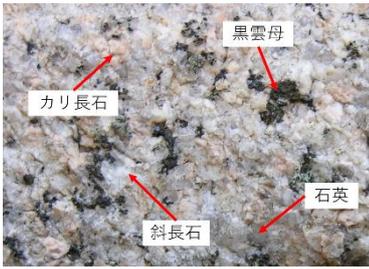
e.安山岩(産地:山口県南部)



淡褐色～赤褐色。斑晶として角閃石および微量の斜長石を含む角閃安山岩。角閃石は自形～半自形の柱状～卓状の斑状組織を呈している。産地は津和野から周南市にかけての山口県青野火山群(100～10 万年前)。

③花崗岩(深成岩)

f.花崗岩(産地:兵庫県六甲山、広島県南部)



長石、石英、黒雲母からなる。瀬戸内海沿岸には良質の花崗岩山地が多く、佐田岬半島には白亜紀後期(8,700～7,500 万年前)の兵庫県六甲山産と広島県南部産の花崗岩製石塔が搬入された。六甲山の花崗岩はピンク色のカリ長石が特徴的で、「本御影」とも呼ばれる銘石

4. 石材が使われた時代 (佐田岬半島) [参考]

時 代	13C	14C	15C	16C	17C
凝灰岩 (愛媛県中予)					
溶結凝灰岩 (大分県南部)					
凝灰角礫岩・火山礫凝灰岩(香川県西部)					
安山岩 (大分県南部)					
角閃石安山岩 (山口県南部)					
花崗岩 (六甲山・広島県南部)					

5. 赤坂坊山石塔群のすごいところ

①石塔の数、石材の種類が多さ

石塔の部材を407点、基数にすると100基以上が1カ所に集まっている。瀬戸内海沿岸などの広範囲からの受け入れられた例は極めて珍しい。

②海の交差点(佐田岬半島の立地背景)

佐田岬半島が、いかに重要な役割を果たしていたことを物語っている。

③中世都市の可能性

赤坂坊山の周辺地には、中世都市が形成されていたと推定される。

6. なぜ地元の石材を使わなかったのか。

①佐田岬半島の地質を構成する結晶片岩は、堅くて丈夫だが摂理面に沿って剥がれやすく立体的な石塔を作るには不向きである。

②石塔の制作は、集団で行われるが技術を持った石工らが育たなかった。

③海上交通がさかんで、他地域の良品を受け入れるほうが合理的だった。

※佐田岬半島の立地条件を合理的に活用していたと言える。

IV. 岩石の見方 [赤坂坊山石塔群で]

組織を見る

→岩石を含むか

- ①角張った岩石片があるか→c.
- ②黄白色の基質で、わずかに花崗岩の粒があるか→a.
- ③灰色の基質で、つぶされてた軽石などがあるか→b.

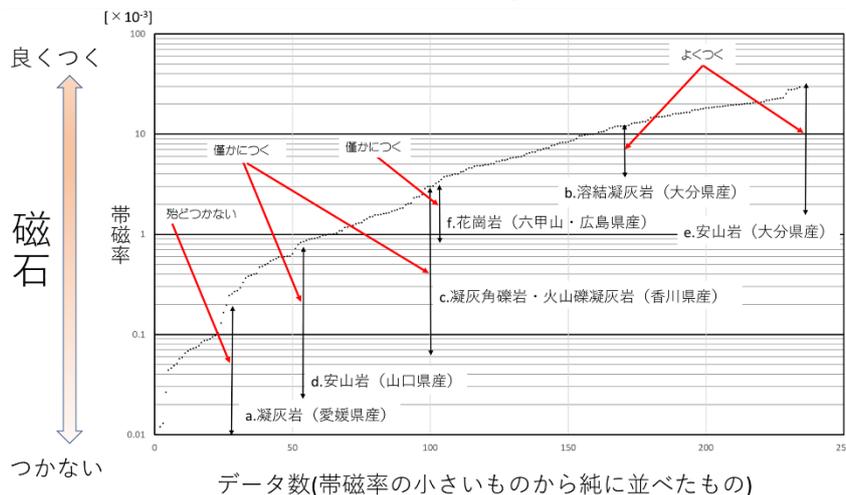
→鉱物を含むか

- ④斑状組織か→d.または e.
- ⑤等粒状組織か→f.

磁石の付き具合はどうか

⇒石材の種類と産地を推定してみよう

V. 「磁石のつきかた」と帯磁率



物質に地場を与えると、物質は多かれ少なかれ磁石の性質を持つことになります。これを「磁化」といい、その程度を示したものが「帯磁率」です。

簡単にいえば、『磁石が付きやすいか、つきにくいかな』を数値で表したものです。数値が大きければ

磁石が付きやすく、小さければ磁石が付きにくいことになります。

V. おわりに

1. 佐田岬半島には、知られざる郷土資源、財産がたくさんある。
2. 佐田岬半島は、瀬戸内海と宇和海を仕切る日本一細長い半島だからこそ、その恩恵受けることができた。
3. 何気なく目に飛び込んできたものが、「どこから」「なんのため」「どうやって」などで、疑問を持つことによって『新たな発見』が得られる。
4. 家の周り、学校の周り、寮の周りなど身近な所を歩いて「宝物探し」をしてみよう。

以上



本日のテーマ

第1部 海の道・陸の道
 ①独特の地形から歴史を読む
 ②その中心は三崎地区だった

第2部 赤坂坊山石塔群
 ③石塔の言葉を翻訳する



第1部

古代と中世 海の道・陸の道

古代の瀬戸内海



- ①海上交通の大動脈
- ②兵士・軍船の供給地
- ③大陸文化が定着した地域

古代の豊予海峡



「速吸之門」と言われる難所
 瀬戸内海と宇和海を仕切る海峡
 関所も置かれていた




古代の陸の道

五畿七道



①律令制における行政区域
上畿 大和、山背、近江、河内、飛鳥
 七道 東海、美濃、信濃、出羽、山陽、山背、河内、近江、丹波、出雲、美作、備前、備後

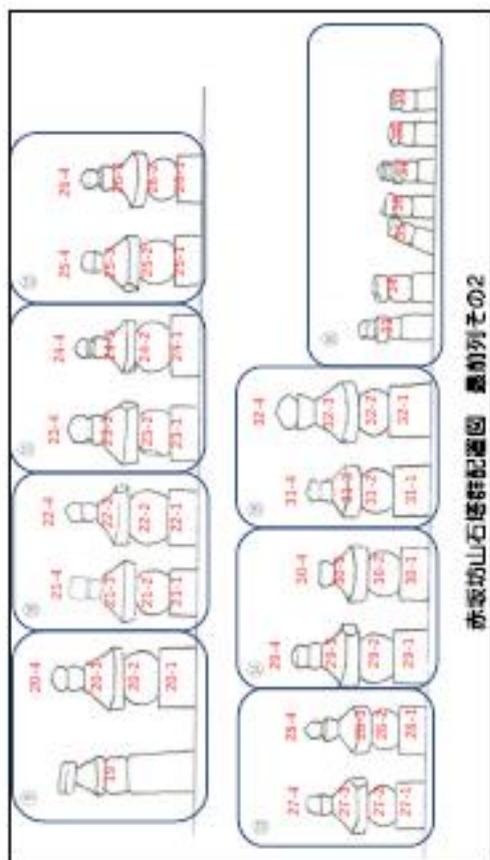
②官道(官路)としての七道
 都と国府を結ぶ幹線道路

南海道

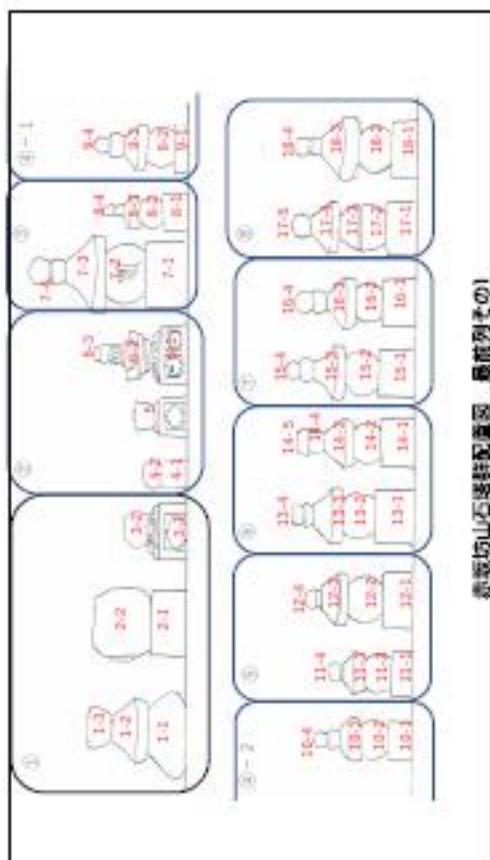
- ①紀伊国、淡路国、阿波国、讃岐国、伊予国、土佐国
- ②官路には16km(30里)ごとに駅家があり馬(5匹)が配された使用できるのは官人のみ



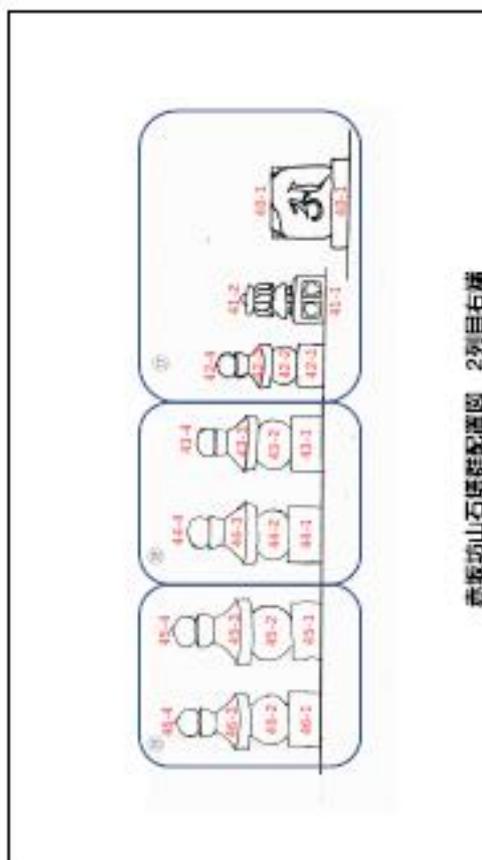
(添付資料 赤坂坊山石塔群配置図)



2



1



3

(添付資料) 石材調査チェックシート

赤松市立石神町(新築)の石材調査

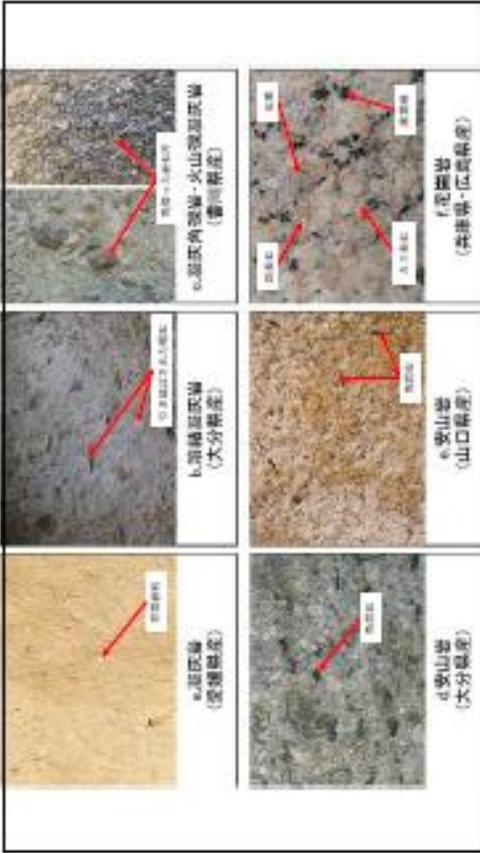
No	No	種別	用途	産地	調査項目				調査結果					
					○	△	×	○	△	×	○	△	×	
①	1-1	基礎	基礎											
	1-2	基礎	基礎											
	1-3	基礎	基礎											
	1-4	基礎	基礎											
	1-5	基礎	基礎											
②	2-1	基礎	基礎											
	2-2	基礎	基礎											
	2-3	基礎	基礎											
	2-4	基礎	基礎											
	2-5	基礎	基礎											
③	3-1	基礎	基礎											
	3-2	基礎	基礎											
	3-3	基礎	基礎											
	3-4	基礎	基礎											
	3-5	基礎	基礎											
④	4-1	基礎	基礎											
	4-2	基礎	基礎											
	4-3	基礎	基礎											
	4-4	基礎	基礎											
	4-5	基礎	基礎											
⑤	5-1	基礎	基礎											
	5-2	基礎	基礎											
	5-3	基礎	基礎											
	5-4	基礎	基礎											
	5-5	基礎	基礎											

No	No	種別	用途	産地	調査項目				調査結果					
					○	△	×	○	△	×	○	△	×	
①	1-1	基礎	基礎											
	1-2	基礎	基礎											
	1-3	基礎	基礎											
	1-4	基礎	基礎											
	1-5	基礎	基礎											
②	2-1	基礎	基礎											
	2-2	基礎	基礎											
	2-3	基礎	基礎											
	2-4	基礎	基礎											
	2-5	基礎	基礎											
③	3-1	基礎	基礎											
	3-2	基礎	基礎											
	3-3	基礎	基礎											
	3-4	基礎	基礎											
	3-5	基礎	基礎											
④	4-1	基礎	基礎											
	4-2	基礎	基礎											
	4-3	基礎	基礎											
	4-4	基礎	基礎											
	4-5	基礎	基礎											
⑤	5-1	基礎	基礎											
	5-2	基礎	基礎											
	5-3	基礎	基礎											
	5-4	基礎	基礎											
	5-5	基礎	基礎											

No	No	種別	用途	産地	調査項目				調査結果					
					○	△	×	○	△	×	○	△	×	
①	1-1	基礎	基礎											
	1-2	基礎	基礎											
	1-3	基礎	基礎											
	1-4	基礎	基礎											
	1-5	基礎	基礎											
②	2-1	基礎	基礎											
	2-2	基礎	基礎											
	2-3	基礎	基礎											
	2-4	基礎	基礎											
	2-5	基礎	基礎											
③	3-1	基礎	基礎											
	3-2	基礎	基礎											
	3-3	基礎	基礎											
	3-4	基礎	基礎											
	3-5	基礎	基礎											
④	4-1	基礎	基礎											
	4-2	基礎	基礎											
	4-3	基礎	基礎											
	4-4	基礎	基礎											
	4-5	基礎	基礎											
⑤	5-1	基礎	基礎											
	5-2	基礎	基礎											
	5-3	基礎	基礎											
	5-4	基礎	基礎											
	5-5	基礎	基礎											

No	No	種別	用途	産地	調査項目				調査結果					
					○	△	×	○	△	×	○	△	×	
①	1-1	基礎	基礎											
	1-2	基礎	基礎											
	1-3	基礎	基礎											
	1-4	基礎	基礎											
	1-5	基礎	基礎											
②	2-1	基礎	基礎											
	2-2	基礎	基礎											
	2-3	基礎	基礎											
	2-4	基礎	基礎											
	2-5	基礎	基礎											
③	3-1	基礎	基礎											
	3-2	基礎	基礎											
	3-3	基礎	基礎											
	3-4	基礎	基礎											
	3-5	基礎	基礎											
④	4-1	基礎	基礎											
	4-2	基礎	基礎											
	4-3	基礎	基礎											
	4-4	基礎	基礎											
	4-5	基礎	基礎											
⑤	5-1	基礎	基礎											
	5-2	基礎	基礎											
	5-3	基礎	基礎											
	5-4	基礎	基礎											
	5-5	基礎	基礎											

No	No	種別	用途	産地	調査項目				調査結果					
					○	△	×	○	△	×	○	△	×	
①	1-1	基礎	基礎											
	1-2	基礎	基礎											
	1-3	基礎	基礎											
	1-4	基礎	基礎											
	1-5	基礎	基礎											
②	2-1	基礎	基礎											
	2-2	基礎	基礎											
	2-3	基礎	基礎											
	2-4	基礎	基礎											
	2-5	基礎	基礎											
③	3-1	基礎	基礎											
	3-2	基礎	基礎											
	3-3	基礎	基礎											
	3-4	基礎	基礎											
	3-5	基礎	基礎											
④	4-1	基礎	基礎											
	4-2	基礎	基礎											
	4-3	基礎	基礎											
	4-4	基礎	基礎											
	4-5	基礎	基礎											
⑤	5-1	基礎	基礎											
	5-2	基礎	基礎											
	5-3	基礎	基礎											
	5-4	基礎	基礎											
	5-5	基礎	基礎											

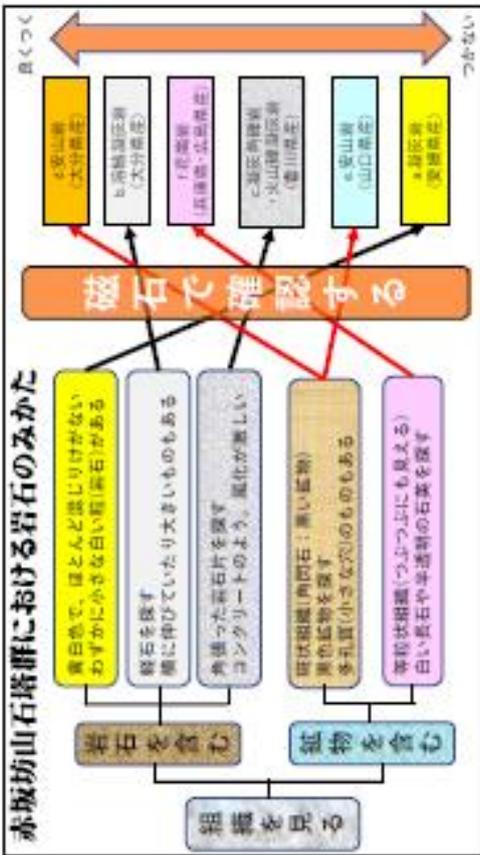


2

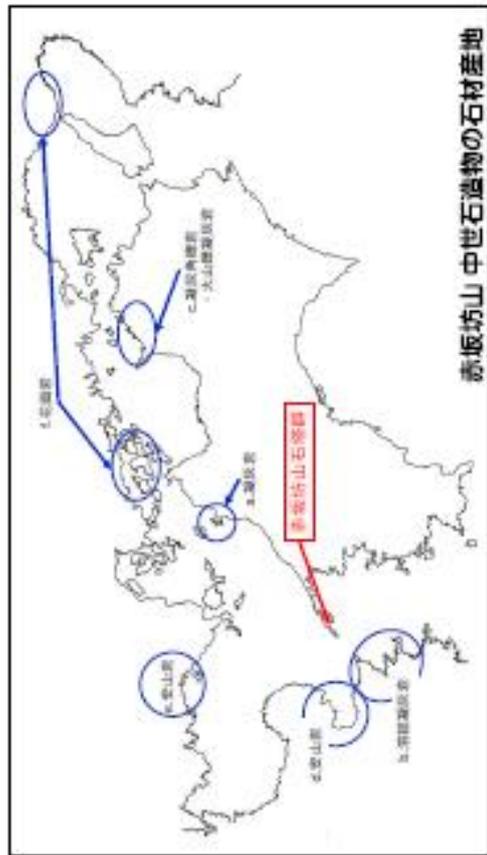
赤坂坊山石塔群から見えること

① 瀬戸内海沿岸や九州の7ヶ所から運ばれた
 ② 鎌倉時代～戦国時代までの石塔が集中

○ 豊後水道と瀬戸内海を結ぶ海の要所
 ○ 大規模な中世都市があった？
 ○ 古代からの継続性も視野に



1



赤坂坊山 中世石造物の石材産地

拓本実習のてびき

拓本をとるときは、必ず所有者に許可を頂き、対象物を汚さないことをお伝えする。

① ② ③ ④

① 紙を準備し、必要に応じて糊を塗る。糊を塗る際は、糊が乾くまで待つ。

② 墨を準備し、筆を墨に浸す。

③ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

④ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

① 墨を準備し、筆を墨に浸す。

② 墨を準備し、筆を墨に浸す。

③ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

④ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

⑤ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

⑥ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

⑦ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

⑧ 墨を準備し、筆を墨に浸す。

(参考)
拓墨を使い拓本を取る場合

①から⑧までは、同様の要領で画仙紙を密着させる。特に、細い文字などは、厚き上がらないようにしっかりと

左: 拓墨
 タンポA: 拓墨にあてる
 タンポB: 画仙紙にあてる

① タンポAを拓墨に押し当て墨をつける。平らに墨がつかないように注意する。

② 別のタンポBに先に墨をつけたタンポAを当て、まんべんなく墨をのばしていく。

③ タンポBで画仙紙を叩く。一度は強く叩くが、全体的に少しずつ薄くなるように仕上げる。

④ 全体を墨ながら薄く塗る。細い文字を漏れにくい文字などは、部分的にコントラストを上げて、読みやすくなるまで塗ると良い。



1

---今日のテーマ---

結晶片岩はどうできたか
佐田岬半島の岩石
佐田岬半島はどうできたか

2

地学のおさらい

地殻や地殻などに含まれる岩石

岩石

- 堆積岩
- 火成岩
- 変成岩

マグマが冷えて固まった

高温 高圧 変成岩の岩石に

この中の結晶片岩に注目!

3

結晶片岩は、どうできたか

玄武岩、石灰岩、チャート、泥岩などが、地下数〜十kmでの高い圧力で結晶片岩となった。

熱・圧力

チャート → 頁岩

砂岩 → 泥岩

石灰岩 → 大理岩

玄武岩 → 玄武岩

石灰岩 → 石灰質片岩

チャート → 珪質片岩

ほぼ垂直に
雁行断層

4

結晶片岩のもと岩石

- 玄武岩 → 緑色片岩
- 泥岩や砂岩 → 黒色片岩
- 泥岩、砂岩、凝灰岩 → 絹雲母片岩
- 石灰岩 → 石灰質片岩
- チャート → 珪質片岩

5

緑色片岩
【佐田岬半島の土台】

原岩は、玄武岩

広域変成作用を受けてできた

片理が発達し、縞模様ができる

6

枕状溶岩

海底噴出する溶岩が、水中で急冷、中央海嶺やホットスポットの海底火山、この枕状溶岩は、潰され楕円形になった。

雁行脈

S字の模様は、雁の群れが飛び光景を連想させることから雁行脈と呼ばれている。

地下深くから岩石が上昇する過程で生じた亀裂に石英や方解石が浸入したものを、

石垣と棧橋

須賀の森はどうできたか？



須賀の森は、三机湾の西に突き出た岬の岩石が荒波によって削られ、さらに流されて堆積した砂嘴(さし)と呼ばれる地形での上に位置している。

砂嘴(さし)のできるまで



岬のように海岸線から突き出た地形があると、①削られた岩が、砂礫となり沿岸流に沿って細長く堆積する。②さらに砂礫の堆積物が延びると沿岸流は湾の内側に回り込む(回折)。砂礫はこの沿岸流の回り込みに沿って「鳥の嘴(くちばし)」のように内側に堆積するようになる。このような地形を砂嘴(さし)と呼ぶ。須賀の森はこのようにしてできた。



一般的に、③さらに砂礫が堆積して砂嘴が対岸まで伸びて湾をふさぐようになったものを砂州(さす)と呼ぶ。この砂州によって湾が湖になった地形を潟湖(せきこ)またはラグーンと呼ぶ。亀ヶ池や阿弥陀池はこのようにしてできた潟湖である。



また、近くの島と繋がるように堆積した地形をトンボロまたは陸繋砂州(りくけいさす)、繋がつた島を陸繋島と呼ぶ。江ノ島は代表例。

八幡浜市真網代のねずみ島のように普段は島と陸地が繋がらず、干潮時に砂礫で繋がる現象を「トンボロ現象」と言う。

以上

(添付資料 地歴部の活動)

地歴部の活動

○令和3年6月3日(木)

地歴部(仮称)打ち合わせ

参加者[垣内彩花、中井美里、中村心夏、平野汐華、綿貫夏月]

津田教諭、黒川、高嶋

16時30分から打ち合わせを行った。

打ち合わせ内容は、

課題などはそのうち決めるという自由参加の緩いグループとする。

当面は、地域のアドバイザー高嶋、黒川がテーマを策定し地域を案内する。

○令和3年6月20日(日)

伽藍山、釈迦の洞、見舞崎地層、松小学校跡、松海岸

参加者[中井、中村、平野、綿貫]

随行者[高嶋、黒川]



○令和3年10月16日(土)

大江集落散策

参加者[中村、平野]

随行者[高嶋、黒川]

佐田岬みつけ隊4名と合同で活動。

・大江地区を一望できる場所から、扇状地や海岸段丘の地形を確認した。

- ・海岸では、褐色層状の結晶片岩なども観察した。
- ・今年で丁度 100 年目となる簡易水道設備跡を見学し、大江集落は井戸が少ない反面、湧水を利用していたことなどがわかった。
- ・中世石造物、客神社、「アカミチ」と呼ばれる古道散策の後、佐田岬みつけ隊長岡さんの庭では、アサギマダラの群に感激した。



○令和 3 年 11 月 20 日(土)

参加者[中村、中井、綿貫]

随行者[黒川、高嶋]

(午前中)田部の古田橋、客神社などを見学の後、大江客神社鳥居の銘文の拓本をとった。[中村]

・未咲輝学で習得した拓本技術を発揮。組頭銘が「井上传兵衛重暁」とわかった。この鳥居は文化 14(1817)年～文政元(1818)年の間に倒壊し、1年も経過しない間に「重明」が、新鳥居を建立したこととなる。

(午後)佐田岬みつけ隊活動:隊員らと合同で塩成地区を散策

・慶長年間に掘削しようとした堀切跡を感じながら、工事に関わった犠牲者を供養した「くえさま」を見学した。

・大川に掛かる「要橋」は兩岸から石を斜めに差し込んだ「はね橋」という構造で、現存しているのは珍しいことを知った。

・最後に、ライオン岩と呼ばれる場所で記念撮影。



○令和3年 12月5日(日)

参加者[中井、中村、平野]

随行者[黒川]

(午前中)笠置峠古墳見学

・笠置峠古墳:宇和盆地と八幡浜とを結ぶ峠の途中、宇和盆地や佐田岬半島を一望できる高い場所に作られた小規模な古墳。古墳時代前期(4世紀前半)に作られた前方後円墳で、宇和盆地一帯をおさめた首長の墓と考えられている。笠木峠古墳は、ヤマト王権や九州とのつながりが指摘されているが、佐田岬半島もその重要な役割を担っていたと考えられている(愛媛県史)。

(午後)愛媛県立歴史博物館、卯之町町並み散策

・愛媛県立歴史博物館:特別展最終日「大名の船」に合わせて見学し、参勤交代は、想像以上の規模だったことに驚いた。展示に合わせたクイズなどもあり参考となった。また、常設展示では、丁度日本史の授業に出てくる所などもあり、各展示の説明文もわかりやすかった。特に、藤原純友の人形が説明するコーナーは、興味深かった。

・卯之町町並み散策:開明学校では、明治時代のモダンな校舎ばかりでなく、当時の授業の様子なども実感できた。また、民具館では、展示品一つ一つが興味深いものであり、特に、文化祭で披露した五ツ鹿展示の前では、会話に花が咲いた。

○令和3年 12 月 20 日(月)

参加者[中井、綿貫]

随行者[黒川]

(午前中)野坂の石垣、野坂権現

・野坂の石垣:小雪舞う中、在地の緑色片岩を積み上げた大規模な防護壁を見学した。江戸時代には作られていたこと、当地の海風が強いことなどを実感できた。

・野坂神社:たこの伝説、宇和島藩主伊達村侯寄進の扁額、さらには周辺に野坂貝塚があったことなど、かつて海運の重要な拠点だったこと実感できた。

(午後)保内町もつきんロード、名取り集落散策

・もつきんロード:緑色片岩や花崗岩のオブジェを見て、結晶片岩の褶曲など模様の違いや花崗岩の『石目』の見かたや「矢穴」などを実感できた。

・名取集落散策:優白のものから緑色と白の相互層など様々な石灰質片岩(大理石)の石垣を見てまわった。個性的で見事な石積みによって作られた共同井戸にまつられた水神様など、いかに水が貴重だったか実感できた。また、石垣の間には真っ白な石灰岩の小石に可愛らしい絵が描かれており微笑ましさを増していた。



以上

4 令和3年度教育課程表

令和3年度教育課程表															
令和3年度入学(普通科)			愛媛県立三崎高等学校(全日制・本校)												
区分	類型		I 型				II 型								
	教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年	計	1年	2年		3年		計		
									文	理	文	理	文	理	
国語	国語総合	4	4				4	4					4		14
	国語表現	3		○2		□2	0・4								
	現代文B	4		2		3	5		2		3		5		
	古典B	4							2		3		5		
地理歴史	世界史A	2	2				2	2					2		7・10
	日本史A	2													
	日本史B	4		3			3			3		2	0・8	0・5	
	地理B	4							3		5		2	0・8	
公民	現代社会	2									2		2		2・5
	倫理	2		2			2			2			2		
	政治・経済	2				3	3		3				3		
数学	数学Ⅰ	3	3				3	3					3		15・17
	数学Ⅱ	4		2		2	4		4				4		
	数学Ⅲ	5										6		6	
	数学A	2	2				2	2					2		
	数学B	2							2				2		
	数学研究	4									4	4	4	4	
理科	物理基礎	2												0・2	6・9・16
	物理	4												0・5	
	化学基礎	2	2				2	2		2			3	2	
	化学	4						2	2				3	5	
	生物基礎	2		2			2	2					2	0・2	
	生物	4												0・5	
	地学基礎	2	2				2	2						2	
生物探究	2					2	2			◎3			0・3		
保健体育	体育	7~8	3	3	3	9	11	3	2		2		7		9
	保健	2	1	1		2		1	1				2		
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2								0・2	2・3・6
	音楽Ⅱ	2	2	△2		0・2		2	▲1				0・1		
	音楽Ⅲ	2				※3	0・3				◎3		0・3		
	美術Ⅰ	2				0・2							0・2		
	美術Ⅱ	2		△2		0・2			▲1				0・1		
	美術Ⅲ	2				※3	0・3				◎3		0・3		
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3		3					3		17
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3		5			4				4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4									4		4		
	英語表現Ⅰ	2	2			2		2					2		
	英語表現Ⅱ	4							2		2		4		
	英語会話	2				▼2	0・2								
	英語総合	2													
家庭	家庭総合	4	2	2		4	4	2	2				4	4	
情報	社会と情報	2	2			2	2	2					2	2	
共通教科・科目計			30	20・22・24	15・17 18・19 20・22	65・67 69・70 71・72 74・76	65・67 69・70 71・72 74・76	30	29・30	30	28	28・30	87・88	88・90	87・88 90
商業	ビジネス基礎	2~4		3		3									10・12 13・15
	マーケティング	2~4				●2	0・2								
	簿記	2~6				4	4								
	情報処理	2~6		3			3								
家庭	電子商取引	2~4				※3	0・3								0・2・4 6・8
	子どもの発達と保育	2~6				▼2	0・2								
	ファッション造形基礎	2~6		○2			0・2								
	フード・テラ・サイン	2~6				●2	0・2								
総合	服飾手芸	1~2				□2	0・2		▲1				0・1		
	総合基礎	2				2	2								
	総合コミュニケーション	2		△2			0・2				2	2	2	0・2	
末咲輝学	3	1	1	1	3	3	1	1		1		3	3		
専門教科・科目計			1	7・9・11	9・11 12・13 14・16	17・19 21・22 23・24 26・28	17・19 21・22 23・24 26・28	1	1・2	1	3	1・3	5・6	3・5	3・5・6
小計			31	31	31	93	93	31	31	31		31		93	93
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	3	3
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	3	1	1	1		1		3	3
合計			33	33	33	99	99	33	33	33		33		99	99
備考	就職・専門学校等希望者向き ○印の中から1科目選択。 ※印の中から1科目選択。 ●印の中から1科目選択。 ▲印の中から1科目選択。 ▼印の中から1科目選択。 □印の中から1科目選択。(2年次「国語表現」選択者は「国語表現」、2年次「ファッション造形基礎」選択者は「服飾手芸」を選択)							大学等進学希望者向き ◎印の内から1科目選択。 ▲印の内から1科目選択。 ■印は物理基礎を4月~9月までまとめて履修し、10月~3月まで物理を履修する。 ▽印は生物基礎を4月~9月までまとめて履修し、10月~3月まで生物を履修する。							

令和3年度教育課程表

令和2年度入学(普通科)

愛媛県立三崎高等学校(全日制・本校)

区 分			I 型				II 型							
教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	計	1年	2年		3年		計		
								文	理	文	理	文	理	
国語	国語総合	4	4			4	4					4	14	
	国語表現	3		○2	□2	0・4								
	現代文B	4		2	3	5		2		3		5		
	古典B	4						2		3		5		
地理 歴史	世界史A	2	2			2	2					2	7・10	
	日本史A	2												
	日本史B	4		3		3					0・8	0・5		
	地理B	4						3		5		0・8		0・5
公民	現代社会	2								2		2	2・5	
	倫理	2		2		2			2		2			
	政治・経済	2			3	3					3			
数 学	数学Ⅰ	3	3			3	3					3	15・17	
	数学Ⅱ	4		2	2	4		4				4		
	数学Ⅲ	5								6		6		
	数学A	2	2			2	2					2		
	数学B	2						2				2		
	数学研究	4								4	4			4
理 科	物理基礎	2											0・2	6・9・16
	物理	4											0・5	
	化学基礎	2	2			2	2				3	3	2	
	化学	4					2	2					5	
	生物基礎	2		2		2						2	0・2	
	生物	4											0・5	
	地学基礎	2	2			2	2						2	
保健 体育	体育	7~8	3	3	3	9	3	2		2		7	9	
	保健	2	1	1		2	1	1				2		
芸 術	音楽Ⅰ	2				0・2							0・2	2・3・6
	音楽Ⅱ	2		△2		0・2	2	▲1				0・1		
	音楽Ⅲ	2			※3	0・3			◎3			0・3		
	美術Ⅰ	2				0・2							0・2	
	美術Ⅱ	2		△2		0・2		▲1				0・1		
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	3					3	17	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3	2	5		4				4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4								4		4		
	英語表現Ⅰ	2	2			2	2					2		
	英語表現Ⅱ	4						2		2		4		
	英語会話	2			▼2	0・2								
家庭 情報	家庭総合	4	2	2		4	2	2				4	4	
社会と情報	2	2			2	2	2					2	2	
共通教科・科目計			30	20・22・24	15・17 18・19 20・22	65・67 69・70 71・72 74・76	65・67 69・70 71・72 74・76	30	29・30	30	28	28・30	87・88 88・90	87・88 90
商 業	ビジネス基礎	2~4		3		3								10・12 13・15
	マーケティング	2~4			●2	0・2								
	簿記	2~6			4	4								
	情報処理	2~6		3		3								
家 庭	子どもの発達と保育	2~6			▼2	0・2								0・2・4 6・8
	ファッション造形基礎	2~6		○2		0・2								
	フードデザイン	2~6			●2	0・2								
	服飾手芸	1~2			□2	0・2		▲1				0・1		
総 合	総合基礎	2			2	2								0・2
	総合コミュニケーション	2		△2		0・2			2	2		2	0・2	
	未咲輝学	3	1	1	1	3	3	1	1		1		3	
専門教科・科目計			1	7・9・11	9・11 12・13 14・16	17・19 21・22 23・24 26・28	17・19 21・22 23・24 26・28	1	1・2	1	3	1・3	5・6 3・5	3・5・6
小計			31	31	31	93	93	31	31	31		31	93	93
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	3	3	1	1	1	1	3	3
特別活動 ホームルーム活動			1	1	1	3	3	1	1	1	1	3	3	
合 計			33	33	33	99	99	33	33	33		33	99	99
備 考			就職・専門学校等希望者向き ○印の中から1科目選択。 ※印の中から1科目選択。 ●印の中から1科目選択。 ▲印の中から1科目選択。 ▼印の中から1科目選択。 □印の中から1科目選択。(2年次「国語表現」選択者は「国語表現」、2年次「ファッション造形基礎」選択者は「服飾手芸」を選択)				大学等進学者希望者向き ◎印の内から1科目選択。 ▲印の内から1科目選択。 ■印は物理基礎を4月~9月までまとめて履修し、10月~3月まで物理を履修する。 ▽印は生物基礎を4月~9月までまとめて履修し、10月~3月まで生物を履修する。							

5 令和3年度「総合的な探究の時間」年間指導計画

学年	第1学年	名称	三崎おこし	単位数	1
目標	郷土の産業、社会、自然、文化、歴史等への理解を深めることにより、地域に対する愛着や誇り、地域社会への帰属感を養うとともに、よりよい郷土を作っていこうとする意欲や態度を身に付けさせる。				
評価方法	活動状況の観察、研究発表の内容及び発表・視聴態度、自己評価、相互評価、成果物	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	学年全体での一斉学習、個別・グループ学習、実習体験				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○オリエンテーション	・ガイダンス ・自己理解活動	・意欲的に聞くことができている。 ・自己の適性を的確に把握している。	2	
5	○スタートアッププログラム	・三崎高校の活動について ・伊方町について ・調査・研究の手法を学ぶ	・主体的に活動している。 ・学習した内容を適切にまとめられている。	3	
6	○地域資源活用プログラム ○地域おこし講演会	・伊方町を知る (自然・歴史・文化等) ・地域おこし講演会	・地域社会への愛着・帰属感の形成につながる活動となっている。 ・意欲的に聞くことができている。	4	
7	○地域資源活用プログラム	・ブイアートプロジェクト	・主体的に活動している。 ・適切な作品が制作できている。	3	
8	○先進事例研究	・県内先進事例調査	・主体的に活動している。 ・調べたことを適切にまとめられている。	1	
9	○先進事例研究 ○地域おこし講演会	・県内先進事例調査 ・県外先進事例調査 ・地域おこし講演会	・主体的に活動している。 ・調べたことを適切にまとめられている。 ・意欲的に聞くことができている。	4	
10	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等 ・集落等コミュニティ課題解決・実践プログラム	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって研究している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	4	
11				4	
12				4	
1	○研究成果発表会	・発表の準備	・適切な手段・方法で、発表準備をしている。	2	
2		・研究成果の発表	・適切な手段・方法によって、効果的で伝わりやすい発表ができている。 ・他者の発表を真剣な態度で聞くことができている。	2	
3	○学習のまとめ	・研究の反省と自己評価	・他者の評価を参考にした反省・評価を行っている。	2	

学年	第2学年	名称	三崎おこし	単位数	1
目標	1年次に研究した内容を基に、地域の魅力や課題について考察し、地域おこし活動を計画・実施することで、郷土愛や地域活性化への使命感を育成するとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力などの生きる力を身に付けさせる。				
評価方法	活動状況の観察、研究発表の内容及び発表・視聴態度、自己評価、相互評価、成果物	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	一斉学習、個別・グループ学習				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○オリエンテーション	・ガイダンス ・活動計画の立案	・意欲的に聞くことができている。 ・主体的に活動している。	2	
5	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	3	
6	○地域おこし講演会	・地域おこし講演会	・意欲的に聞くことができている。	4	
7	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。	3	
8			・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	1	
9	○地域おこし講演会	・地域おこし講演会	・意欲的に聞くことができている。	4	
10	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。 ・適切な成果物等が制作できている。	4	
11	○探究活動	・集落等コミュニティ課題解決・実践プログラム	・他者と協働して活動することができる。 ・地域社会への愛着・帰属感、地域活性化への使命感の形成につながる研究となっている。	4	
12				4	
1	○研究成果発表会	・発表の準備	・適切な手段・方法で、発表準備をしている。	2	
2		・研究成果の発表	・適切な手段・方法によって、効果的で伝わりやすい発表ができている。 ・他者の発表を真剣な態度で聞くことができている。	2	
3	○学習のまとめ	・研究の反省と自己評価	・他者の評価を参考にした反省・評価を行っている。	2	

学年	第3学年	名称	三崎おこし	単位数	1
目標	1、2年次に研究した内容を基に、地域の魅力や課題について考察し、地域おこし活動を計画・実施することで、郷土愛や地域活性化への使命感を育成するとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力などの生きる力を身に付けさせる。				
評価方法	活動状況の観察、研究発表の内容及び発表・視聴態度、自己評価、相互評価、成果物	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	一斉学習、個別・グループ学習				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○オリエンテーション	・ガイダンス ・活動計画の立案	・意欲的に聞くことができている。 ・主体的に活動している。	3	
5	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	3	
6	○地域おこし講演会	・地域おこし講演会	・意欲的に聞くことができている。	4	
7	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	4	
8				1	
9	○地域おこし講演会	・地域おこし講演会	・意欲的に聞くことができている。	4	
10	○探究活動	・特産品の開発、情報発信・防災、イベント研究等	・主体的に活動している。 ・適切な手段・方法によって調査している。 ・郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる活動を行うことができている。	4	
11	○探究活動	・集落等コミュニティ課題解決・実践プログラム	・他者と協働して活動することができる。 ・地域社会への愛着・帰属感、地域活性化への使命感の形成につながる研究となっている。	4	
12				4	
1	○学習のまとめ	・研究の反省と自己評価	・活動を総括した反省・評価を行っている。	3	
2	○研究成果発表会	・発表の準備 ・研究成果の発表	・適切な手段・方法で、発表準備をしている。 ・適切な手段・方法によって、効果的で伝わりやすい発表ができている。 ・他者の発表を真剣な態度で聞くことができている。	1	

6 令和3年度学校設定科目「未咲輝学」年間指導計画

学年	第1学年	名称	未咲輝学 I	単位数	1
目標	<p>地域課題を発見し解決するという活動を通して、判断力やコミュニケーション力などの力を身に付けさせるとともに、地域への愛着を高めさせる。</p> <p>将来地元に戻り、暮らしていくことを考えさせる活動に取り組むことで、持続可能なまちづくりを行うことのできる、地域リーダーとなる生徒を育てる。</p>				
評価方法	活動状況の観察、職場体験における活動、自己評価、相互評価、活動報告書	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	学年全体での一斉学習、個別・グループ学習、実習体験				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○地域おこし とは	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確認 学習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に聞くことができています。 主体的に活動している。 	2	
5	○地域見学	<ul style="list-style-type: none"> SDGs と地方創生 町内巡り 観光拠点施設「はなはな」見学 地域産業学習 	<ul style="list-style-type: none"> 自分事として話を聞くことができています。 地域の特徴について理解を深めることができています。 地域の人と積極的に交流することができています。 適切な手段・方法によって調査している。 	3	
6				4	
7				2	
8	○職場体験 (インターシップ)	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 職場体験 事後学習 	<ul style="list-style-type: none"> マナーや礼儀を習得することができています。 職場体験を通して、様々な年齢や立場の人と適切に交流する力を身に付けることができています。 職場体験を通して、地域の産業について理解を深めることができています。 	1	
9				4	
10	○地域の人との 交流	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー 交流授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動している。 地域の人と積極的に交流している。 	4	
11				4	
12	○地域課題の 理解	<ul style="list-style-type: none"> 伊方町の特徴調査 地域課題の発見 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な手段・方法によって、調査活動が実施できています。 自分事として、地域課題を設定することができています。 	3	
1				3	
2	○学習のま とめ	<ul style="list-style-type: none"> 到達度の確認 学習のまとめと反省 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な手段・方法によって、活動報告書を作成できています。 他者の評価を参考にした反省・評価を行っている。 	3	
3				2	

学年	第2学年	名称	未咲輝学Ⅱ	単位数	1
目標	<p>地域課題を発見し解決するという活動を通して、判断力やコミュニケーション力などの力を身に付けさせるとともに、地域への愛着を高めさせる。</p> <p>将来地元に戻り、暮らしていくことを考えさせる活動に取り組むことで、持続可能なまちづくりを行うことのできる、地域リーダーとなる生徒を育てる。</p>				
評価方法	活動状況の観察、成果物、自己評価、相互評価、活動報告書	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	学年全体での一斉学習、個別・グループ学習				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○地域づくりとは	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確認 学習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に聞くことができる。 主体的に活動している。 	2	
5	○地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の生態系とは 地域コミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動している。 地域コミュニティの在り方について理解している。 	3	
6	○RESAS	<ul style="list-style-type: none"> RESASとは RESAS分析 	<ul style="list-style-type: none"> RESASの使い方を理解している。 RESASを使って適切な地域分析ができています。 	4	
7				3	
8	○RESAS	<ul style="list-style-type: none"> 「地方創生☆政策アイデアコンテスト」プラン作成 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土理解を深め、よりよい地域社会の形成につながる研究となる企画書を作成している。 	1	
9				4	
10	○未来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンづくり 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を踏まえて、前向きなビジョンを作成できている。 	4	
11	○全国高校生マイプロジェクトアワード	<ul style="list-style-type: none"> 「全国高校生マイプロジェクトアワード」プラン作成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会への愛着・帰属感、地域活性化への使命感の形成につながる研究となっている。 	4	
12	○生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジできる場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を踏まえて、主体的に活動できている。 	2	
1		<ul style="list-style-type: none"> チャレンジできる内容づくり 		3	
2	○学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 到達度の確認 学習のまとめと反省 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な手段・方法によって、活動報告書を作成できている。 他者の評価を参考にした反省・評価を行っている。 	3	
3				2	

学年	第3学年	名称	未咲輝学Ⅲ	単位数	1
目標	<p>地域課題を発見し解決するという活動を通して、判断力やコミュニケーション力などの力を身に付けさせるとともに、地域への愛着を高めさせる。</p> <p>将来地元に戻り、暮らしていくことを考えさせる活動に取り組むことで、持続可能なまちづくりを行うことのできる、地域リーダーとなる生徒を育てる。</p>				
評価方法	活動状況の観察、成果物、自己評価、相互評価、活動報告書	担当 教員	学年団教員、関連教科教員		
授業の方法・形態	学年全体での一斉学習、個別・グループ学習				
月	単元	学習活動	評価規準	時数	
4	○求められる地域人材とは	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認 ・学習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に聞くことができています。 ・主体的に活動している。 	3	
5	○起業家育成	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営 ・電子商取引 ・起業家育成 ・販売実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動している。 ・企業経営や電子商取引などについて理解している。 ・場面や状況に応じた臨機応変な対応ができています。 	4	
6				4	
7				4	
8	○地域企業理解	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業や地域の産業について理解している。 	1	
9				4	
10	○地域PRポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの制作 ・ポスターセッションの実施 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かして、地域の特性を踏まえたポスターが制作できている。 ・聞き手に伝わりやすい発表ができています。 	4	
11				4	
12	○SDGsと教育	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組んでいる。 	4	
1	○学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度の確認 ・学習のまとめと反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な手段・方法によって、活動報告書を作成できている。 ・他者の評価を参考にした反省・評価を行っている。 	3	